

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871000331
法人名	有限会社たちばな
事業所名	グループホームたちばな
所在地	伊予市灘町136番地2
自己評価作成日	平成26年8月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>協力医院と連携して利用者様の健康管理を行い、利用者様の安心と安全を最優先に行っている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は、医療依存度の高い利用者の入居が多く、系列医療機関と密に連携して、「医療行為も可能な事業所」を特徴としている。又、医療関係者からのアドバイス等を踏まえた介護計画を立てるようにされている。</p> <p>2ヶ月に1度の誕生会の際には、利用者の希望を聞き、職員が靴下やクッション等、プレゼントを決めて配るようだ。</p> <p>最近のミーティング時、職員で話し合って利用者の笑顔の写真を一日1枚ずつ撮り、掲示板に飾ることを決められた。ご家族にも見ていただきたいと話しておられた。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームたちばな

(ユニット名) グループホームA棟

記入者(管理者)

氏名 山下 功

評価完了日

平成26年 8 月 5 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を通して職員のやる気、スキルUPなどの指導に勤めている。	
			(外部評価) 「心やすらぎ、生きがいを持ち充実した生活を送れる」という理念を揚げておられる。事業所は、医療依存度の高い利用者の入居が多く、系列医療機関と密に連携して、「医療行為も可能な事業所」を特徴としている。さらに、グループホームの意義や目的について職員で話し合ったり、又、理念に立ち戻りながら今後の支援のあり方や取り組みについて、話し合うような機会を作ってほしい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・地域のボランティアの人との交流をし地域密着を目指している。 ・イベントなどでの地域の人との交流など。	
			(外部評価) 民生委員の方は、「元気にしてる？最近どんな？」と地元の利用者を気にかけて時々会いに来てくれている。併設デイサービスにボランティアの方が来られる時には、一緒に楽しめるよう時々お連れしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・定期的に消防署との連携をとり勉強会を開催している。 ・概ね2ヶ月ごとに運営推進会議を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の消防団、民生委員の方々との会議の開催で施設者対策や認知症の理解を深めた。</li> <li>・地域の方々の協力により施設での芸能や食事会など皆さんで楽しく機会がもてた。</li> </ul> <p>(外部評価)</p> <p>この一年間は、2ヶ月ごとに行う誕生会を運営推進会議とされており、2ヶ月間の誕生日者のご家族が数名参加されている。報告書には今後の反省点として、「今後地域住民の方も呼び出して親睦を図っていきたい」と記入されている。</p>	<p>さらに、運営推進会議の意義や目的を話し合い、地域の方や市の担当者の方等にも会議を案内して、計画的に取り組まれてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空室、待機情報の共有。</li> <li>・メールにて担当者とのスムーズなやり取りをしている。</li> </ul> <p>(外部評価)</p> <p>この一年間の運営推進会議については、市に案内しておらず、事業所から空室状況等を報告する際には、市の担当者から会議開催を促されることもある。消防署が新しくなり、発煙の中を避難する訓練ができる設備もあり、新人職員が体験できるよう案内があり、参加されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族様のご理解を得た上で病状の悪化防止や危険防止のための抑制はあるが、利用者様の気持ちを大切にし、介護職員にも指導し、最低限の実施としている。</li> </ul> <p>(外部評価)</p> <p>「防犯のため」に玄関、建物外、居間や事務所等に向けて防犯カメラを設置しており、居間のモニターで見られるようになっていく。「安全のため」ユニット出入り口の戸は、上下2ヶ所にロックしている。車いすを使用する方は、外に出ようとはされないようだが、利用者によっては、2つのロックを開けて出られるようだ。「車いすから立ち上がることが危険」なため、ひもでY字に腰から車いすに固定している利用者は、足を置くフットサポートを外してあり、自走されていた。又、「点滴のチューブを抜く」ような方にはミンを付けたり、共用デイを利用する方は、フットサポートから足が降りないようにフットサポートと靴をひもで縛っていた。転倒の心配がある方については、ご家族に利用者の状態を説明して、「このままだと転倒する」ことを話し、「拘束する事とどちらがよいか」話し合っている。</p>	<p>管理者は、「安全を守る」という考えのもと、現状を身体拘束とは捉えておられないが、今後、すべての職員で身体拘束について学び、ケアの工夫について考え続けていかれてほしい。介護計画にも採り入れながら、身体拘束しないケアの実践に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。</p>

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  ・常に、利用者様の身体チェックは行っている。受傷発見の場合は検証をし原因対策を追求し実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  ・ケアマネージャーが権利擁護、成年後見に関する研修を受講している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  ・文書と口頭説明により十分ご理解いただいたうえで署名捺印をして頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  ・請求書発送時、利用者様の近況報告の手紙を入れている。 ・面会時や何かあったときなどは直ぐに担当者が家族様に知らせることになっている。 ・意見箱の設置  (外部評価)  法人全体の通信「たちばな」は、平成25年12月が最終発行となっているが、毎月のお手紙は、継続して取り組んでおり、個々の担当職員が書き、ご家族に利用者の状態を報告されている。最近のミーティング時、職員で話し合って利用者の笑顔の写真を一日1枚ずつ撮り、掲示板に飾ることを決められた。ご家族にも見ていただきたいと話しておられた。入居に際しては、ご家族の協力が得られる方を対象にされており、ご家族の来訪も多く、外出や外泊等、協力的のようだ。法人代表者は、「家族会をぜひ開催したい」と思っておられ、管理者は近々開催したいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・スタッフ会議の開催、週2回の報告会など発言しやすい場所作りをしている。	
			(外部評価) 職員の試用期間を設けており、適性等を相互にうかがうようにされている。職員の入れ替わり等もあり、職員それぞれの業務やケア等の負担軽減のために、入浴専門・食事専門等の職員を配置しているが、その他のケアへのかかわりが薄くなりがちなのが課題のようだ。外部研修の案内があれば、管理者が内容を見て受講に適する職員をピックアップし、声をかけている。職員は、研修受講後、報告書を作成して他職員に周知すれば、指導料が支給されるような仕組みを新たに作っており、職員の研修意欲の向上につながっているようだ。職員は、「楽しい雰囲気を作りたい」と話しておられ、「外出したりレクリエーションについて考えていきたい」と話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・やる気を出させるための、環境づくりをしている。褒賞制度やスキルアップ研修などの参加制度も設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・職員一人ひとりの能力に応じた指導や業務内容の設定で良いところを伸ばす指導をしている。定着化を推進するために、社員化を進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・月に1度は、全体ミーティングを行い他事業所との情報の共有や協力などを行っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・常にスタッフ同士で話し合いサービスの進め方を決めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	・利用者様担当者を決め責任を持って対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	・利用者様、家族様の要望や意見を聞き、担当者、ケアマネを中心に柔軟な対応を心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	・職員には、常々利用者様も職員も家族の一員であることを言っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	・家族様とのコミュニケーションを大切にし情報の共有を図っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	・面会は、家族様に限らず友人や近所の人も来られている。また、定期的に墓参りなどの支援も行っている。	
			(外部評価)	現在、地元からの利用が多く、ご自宅が近いこともあり、毎週ご自宅に戻り、ご家族と過ごされる利用者もいる。入居前、教会のミサに出かけていた利用者には、職員が同行して支援することもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)  ・職員が間に入り、調和を図っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)  ・定期的に訪問や連絡を行い近況の情報をとっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)  日頃の声かけから気づき、職員間で情報を共有し意向を汲めるように努力している。	
			(外部評価)  帰りたいと言う利用者には、ご自宅を見に行ったりお墓参り等を支援して、落ち着いてから事業所に戻るよう支援することもある。2ヶ月に1度の誕生日会には、利用者の希望を聞き、職員が靴下やクッション等、プレゼントを決めて配るようだ。さらに、今後は、利用者の意向や希望等を探っていく取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。利用者の情報を蓄積して事業所理念や利用者の意欲向上に向けた支援に取り組みられてほしい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)  個人ファイルに生活歴や生活環境を記入し職員全員が共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)  介護記録を活用し、日々交代時に報告、確認をしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・家族様の要望などは直ぐに取り入れ担当者主導のカンファレンスを行い実践している。医療との連携強化も図っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>今年5月にケアマネジャーの交代があり、介護計画は、後者に引き継がれた。医療依存度の高い利用者が多く、医療関係者からのアドバイス等を踏まえた計画を立てるようにされている。計画は毎月モニタリングして半年ごとに見直す仕組みを作っておられる。計画については、ご家族の来訪時等に要望をお聞きしているが、計画作成後も意見をうかがい、確認してもらえるような取り組みが求められる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録のほかにブリーフィングを毎朝行い情報の共有を行っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様の変化など情報を集約し最良なサービスを訴求している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>年間行事の際には周辺施設、住民に協力を依頼している。買い物などは地域でするように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)  24時間体制を医療従事者とはとれるようにしている。	
			(外部評価)  系列医療機関とは密に連絡を取っており、現在は、受診できるよう支援されている。訪問看護師も来られて、健康管理や処置をされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)  訪問看護師により健康状態の把握や適切な処置が受けられる。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)  緊急時はまず、職員により医療連携が行われ救急搬送の同行をし早急な対応を行っている。連絡を密にし情報交換や相談を行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)  早い段階で家族様と話しをし、医師との話し合いも行っている。医師、看護師のアドバイスの元、終末ケアについての介護も行っている。	
			(外部評価)  入退院を繰り返し、医師から終末期と言われた利用者があったが、ご家族が事業所へ戻ることを希望され、事業所で過ごしておられる方がいる。現在は、状態も落ち着き、ご家族も喜んでおられるようだ。事業所は「最期まで支援することや医療行為もできること」をご家族に説明されており、最期まで事業所で過ごすことを希望する方がほとんどのようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 他部署、主治医と連携し急変時、事故など救急対応訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的(年2回)に消防所指導のもと避難訓練を行っている。	
			(外部評価) 春には、消防署の協力のもと、日中、1階からの火災を想定して非常階段から避難誘導する訓練を行われた。訓練後の職員の話し合いの中で、スムーズに避難できるよう「居室の整理の必要性」について意見があり、個々の居室にチェック表を設けて整理整頓できるよう取り組まれている。事業所は、海の近くに立地しており、津波についても訓練の必要性を感じる。避難場所まで実際に歩いてみたり、地域の防災訓練等への参加等、地域と協力し合えるような取り組みもすすめていかれてほしい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様は人生の先輩であり尊敬の気持ちを持って接している。また、プライバシーなども尊重し接している。	
			(外部評価) 管理者は職員に「スキンシップと声かけ」を大切にかかわることを日常的に話しておられる。ほとんどしゃべらない方が、入居後、職員が話しかけを繰り返すことで少し話すようになった方がいる。車いすを使用する利用者が多く、調査訪問時には、利用者が自ら行動するような様子はあまりなく、職員が行き来する姿やナースコールの音、又、利用者によっては、尿臭や爪の衛生、車いすの汚れ等、外部者から気になる点があった。 調査訪問時には、トイレ介助時、扉を開けたまま介助されているような場面が見られた。職員は、介助しながら居間の利用者の様子を見守るためのようではあるが、利用者の立場に立ち事業所内を点検されてみてはどうだろうか。職員の気付きを取り組みのきっかけにして、事業所のさらなるケアの質向上を目指していかれてほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が理解納得できるように説明し、自己決定できるよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のリズム、ペースを尊重し生活していただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪など定期的に訪問してもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを把握し食事の提供をしている。食膳に口腔体操を実施している。	さらに利用者一人ひとりが食事を楽しむことができるような支援について、職員のかかわり方を工夫したり、利用者の好み、習慣等を踏まえて支援をすすめていかれてほしい。利用者の持っている力を活かしながら、工夫を重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 調理専門職員2名が交替で担当して食事を作っておられる。事業所の台所で調理したり、昼食は法人厨房で併設サービス等の分と合わせて作っておられる。冷凍食品等も使用しており、刺身は提供しないことになっている。利用者の状態に応じて、ユニットごとに食材を切ったり、とろみを付けたりしてお出ししている。又ご飯をおかゆやおじやに替える方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量は日々管理し看護師に報告している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科衛生士の指導のもと、一人ひとりに対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)  チェック表にて排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	
			(外部評価)  ベッド上で長時間を過ごす方が多く、排泄用品等を使用する方も多い。利用者によっては、車いすに排泄用品を常備しており、失禁の対処として座布団の上に紙パッドを敷いている方がみられた。中には、車いすを自走してトイレに行く方もおられる。トイレ内には「排便したら職員を呼んでください」と貼り紙しているが、現在は、介助を必要とする方が多いため必要はないようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)  排便がしばらく見られないときは主治医の指示により下剤を服用している。適度な体操などを日々して頂いている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)  本人の入浴したいか確認の上入浴して頂いている。保清・感染防止のため、最低でも週2回は入浴して頂いている。入浴拒否の利用者様や入浴が怪我などで出来ない場合は清拭にて対応している。	
			(外部評価)  週に2~3回入浴できるよう支援されており、入浴専門職員を配置し、必要に応じて職員2名で介助して支援されている。同性介助で支援しており、立つことができない方や浴槽に入ることを怖がる方には、シャワーを浴びることを支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)  利用者様に応じて日中リビングや居室で休息をして頂く。夜間も本人のリズムで就床して頂いている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  利用者様の薬情を見て理解に努めている。看護師の服薬管理のもと対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  利用者様それぞれの価値観を尊重しそれぞれにあわせたレクリエーションなどで生きがいを探している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  家族様との外出などを行っている。  (外部評価)  現在は、職員の人手のこと等があり、外出支援に難しさもあるため、近くにある系列医療機関の受診時を利用者の外出の機会とされている。職員は車いすを押して病院までの間、景色を楽しめるよう支援されている。併設デイサービスで外出する時には、時には数名と職員と一緒に出かけるようなこともあるようだ。	ご家族から外出についての要望もあるようだ。又、職員は、「活気のあるホームにしたい」と考えておられ、外出支援にも取り組みたいと話しておられた。重度の利用者が多いため、支援に難しさもあるようだが、事業所の理念とも照らし合わせながら、協力者等を募る等して支援に工夫して取り組んでいかれることが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  お小遣いは、一人ひとり管理の下金庫にて保管している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  職員が代行したりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節に応じた飾りや演出をしている。共用の空間を整理整頓するように心がけているが完璧ではない。温度管理は、マニュアルに基づいて行っている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、テレビを点けているが、利用者がおしゃべりすることはあまりなく、静かな空間であった。テーブルにお花を飾ることも試みられたようだが、利用者の方が口に入れてしまうようなこともあったため、現在は控えている。調査訪問時の午後からは、夕食作りする職員が三角巾にエプロンを着けて台所で調理をされていた。併設デイサービスにマッサージ師の方が来られる時には、時には一緒に受けられるようお連れしている。さらに、生活感や季節感が感じられるような空間作りについて、さらに工夫されてみてはどうだろうか。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用の場所を設けて利用者様同士がコミュニケーションを図れるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) なるべく自宅でのレイアウトや使用物などを家族様と相談の上使用している。生活環境が著しく変化しないように配慮している。</p> <p>(外部評価) 利用者の状態によってユニットを移動しており、重度の方が多いう닛は、居室で医療行為を受けたり、ベッドで横になって長時間過ごすような方もいる。居室の掃除についても専門の職員が行うようになっている。食後歯磨きをした後は、居室で過ごすのが日課の方もおり、職員は「部屋に行こうね」と声をかけておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 各利用者様にとっての自立は何か？よく考え職員同士で相談し対応している。</p>	